

「人生会議 ～今も、そして最期の時も、ずっと自分らしく生きる～」

令和7年11月30日(日)まっえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会 市民公開講座を開催しました。ACP をテーマにしたドラマ上映・講話・パネルディスカッションを行いました！当日は、松江市民とスタッフ合わせて 106人のみなさまと一緒に ACP について考えることが出来ました。



松嶋 永治 会長

- ◇ 総合司会 松江市薬剤師会 理事 小椋邦夫 氏
- ◇ 開会挨拶 まっえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会 会長
松江市医師会 副会長 松嶋 永治 氏
- ◇ 閉会挨拶 まっえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会 副会長
松江赤十字病院 副院長 真鍋 敦 氏

1.ドラマ上映

松江市内医療・介護関係者から、人生会議を行なったエピソードを募集。実際に行われた人生会議をもとに作成したオリジナルストーリーでドラマを撮影し、この度上映を行いました。

フリーアナウンサーのおがっちさん演じる 86 歳の松子さんが、心不全という病気を抱えながら、人生会議を行い最期まで自分らしく過ごす姿を描いたお話です。

出演者の皆様

- ◇ 主人公松子さん:おがっちさん
- ◇ 医師:伊藤 健一 氏 (松江市医師会 副会長)
- ◇ 看護師:山城 浩子 氏
(島根県訪問看護ステーション協会松江支部 副支部長)
- ◇ ケアマネジャー:井上 龍一 氏
(松江地域介護支援専門員協会 会長)
- ◇ 松子さんの息子:濱田 龍 氏
(しまねリハビリテーションネットワーク 副理事)



2 .講話・座談会

ドラマに出演いただいた伊藤先生、山城さん、井上さんより、医師・看護師・ケアマネジャーの立場から、人生会議に関するそれぞれの役割等についてご講話いただきました。

その後、ドラマや講話の内容を交えて、しまねリハビリテーションネットワーク副理事の濱田龍さんも一緒に「在宅看取りと ACP」について意見交換を行いました。

- ◇ 座長 松江市歯科医師会 副会長 内藤 晋一 先生

内藤座長より会場へ質問):家族と話したことがありますか？ (20名程度挙手)

…多くはないけど、意外とおられますね。子供からよりは、本人から話が出る方が、話が進みやすいしょうか。パネラーのみなさんいかがですか？

山城さん)現在40人位担当しているが、終活支援ノートの紹介をしても、今は大丈夫と言われることが多い。2～3人位は、ノートを持っておられる。

伊藤先生)終活支援ノートをストックはしているが、まだ渡したことがない。患者さんが話せるうちに勧めていきたい。

会場からの質問

⇒病床削減が進み、かかりつけ医を持ち、動けなくなれば訪問診療を受けるようになるが、かかりつけ医が訪問診療していない場合、松江に在宅医療専門医はいるのか？

山城さん)訪問看護師が入っていることが多いが、訪問診療をしていない医師の場合は、対応している医師へ紹介し、連携している。家での看取りに不安があると思うが、医師や看護師、ケアマネジャーに相談してもらいたい。

内藤座長より:在宅看取りとACPでの課題は？

井上さん)いざとなったらではなく、今のうちに行うことが浸透していないように思う。

濱田さん)終活支援ノートを書いた人の割合が少なかった。終活支援ノートを当たり前に書くような取り組みが必要である。

3. おがっちさん サプライズ登場

自身の ACP 体験談・・・父は家族に事前に何も話してくれなかったので、後で非常に困った。その経験を踏まえ母は、色々話してくれるようになった。人生会議をして備えておく必要を感じている。



正副会長と、ご出演されたみなさま

おがっちさんサプライズ登場

♪参加者からの感想を一部紹介♪

「高齢の両親と暮らしている。両親のことを知っているようで、本当の気持ちや希望をわかっていないことがあるかもと改めて感じた。今日を機会に少しずつ思いを聞いていきたい。」

「急に突然意識がなくなることがあった時のために、話し合いの大切さが伝わった。人生を幸せに過ごせるように、今日見たドラマを参考にしたい。」

「身体が動くうちは中々具体的に考えにくいですが、必要に迫られてからでは遅いかなと思った。」